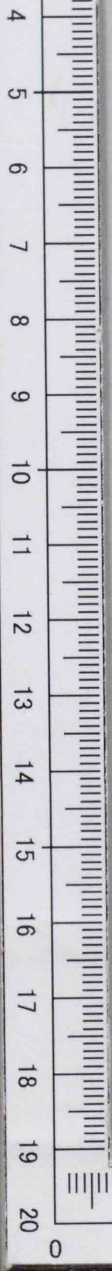


3a
760
明44

尋常小學唱歌

第一學年用

文部省



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

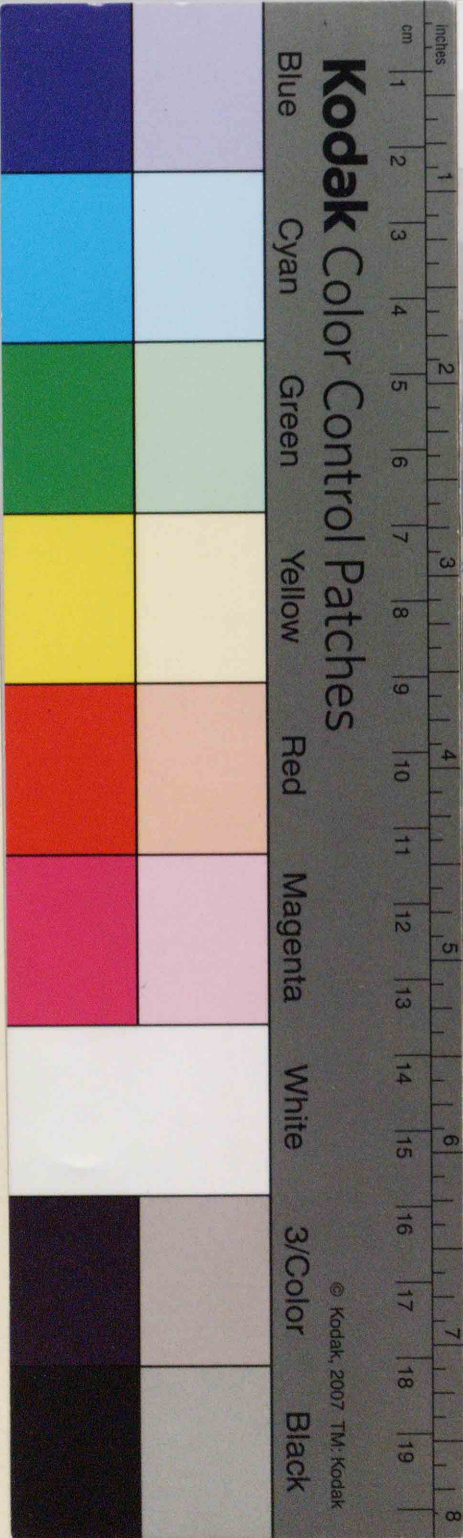


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



40386

教科書文庫

4
760
31-1911
2000.0
690117

資料室

尋常小學唱歌

第一學年用

文部省



3a

760

9月4日

緒 言

- 一、本書ハ本省内ニ設置セル小學校唱歌教科書編纂委員ヲシテ編纂セシメタルモノナリ。
- 二、本書ノ歌詞中、尋常小學讀本所載以外ノモノニ就キテハ、修身・國語・歴史・地理・理科・實業等諸種ノ方面ニ涉リテ適當ナル題材ヲ求メ、文體用語等ハ成ルベク讀本ト歩調ヲ一ニセンコトヲ期セリ。
- 三、本書ノ曲譜ハ排列上其ノ程度ニ就キテ多少難易ノ順ヲ追ハザルモノナキニアラズ。是其ノ歌詞ノ性質上已ムヲ得ザルニ出デタルナリ。

明治四十四年二月

文 部 省

目 次

目次

一 日の丸の旗..... 2	一一 池の鯉..... 22
二 鳩..... 4	一二 親の恩..... 24
三 おきやがりこほし..... 6	一三 鳥..... 26
四 人形..... 8	一四 菊の花..... 28
五 ひよこ..... 10	一五 月..... 30
六 かたつむり..... 12	一六 木の葉..... 32
七 牛若丸..... 14	一七 兎..... 34
八 夕立..... 16	一八 紙鳶の歌..... 36
九 桃太郎..... 18	一九 犬..... 38
一〇 朝顔..... 20	二〇 花咲爺..... 40

一、日の丸の旗

一、白地に赤く

日の丸染めて

あうつくしや

日本の旗は。

二、朝日の昇る

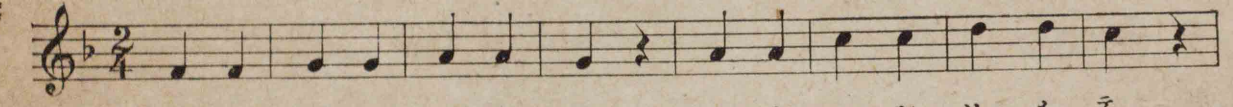
勢見せて

あ勇ましや

日本の旗は。

日の丸の旗

♩=108



一 シロチニアカク ヒノマルソメテ
二 あさひのほる いきほひみせて



二 アアウツクシヤ ニホシノハタハ
ああいさましや にほんのはたは

三、鳩

一、ぼつ ぼつ ぼ、

鳩 ぼつ ぼ、

豆がほしいか、

そらやるぞ。

みんなで仲善く

食べに來い。

二、ぼつ ぼつ ぼ、

鳩 ぼつ ぼ、

豆はうまいか、

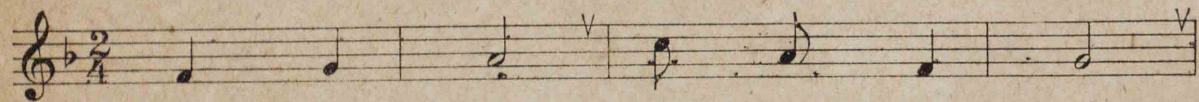
食べたなら、

一度にそろつて

飛んで行け。

鳩

♩=96



一 ポツ ポツ ポ ハ ト ポツ ポ
二 ぼつ ぼつ ぼ は と ぼつ ぼ



マ メ ガ ホ シ イ カ ソ ラ ヤ ル ゴ
ま め は う ま い か た べ た な ら



ミ ン ナ デ ナ カ ヨ ク タ ベ ニ コ イ
い ち ど に そ ろ つ て と ん で い け

三、おきやがりこぼし

一、投り出されてころく轉び、
 體ゆすつてむつくと起きて、
 あちらを向いて、黙つてすわる。
 おきやがりこぼしはおもしろい。

二、幾度投げても何時でもおきる、
 體ゆすつてむつくと起きて、
 こちらを向いて人をばにらむ。
 おきやがりこぼしはをかしいな。

おきやがりこぼし

♩=100

おきやがりこぼし

一 ハ フ リ ダ サ レ テ コ ロ コ ロ コ ロ ビ
 ニ い く ど な げ て も い つ で も お き る

カ ラ ダ ユ ス ツ テ ム ツ ク ト オ キ テ
 か ら だ ゆ す つ て む つ く と お き て

ア チ ラ ヲ ム イ テ ダ マ ツ テ ス ワ ル
 こ ち ら を む い て ひ と を ば に ら む

六
 オ キ ヤ ガ リ コ ボ シ ハ オ モ シ ロ イ
 お き や が り こ ぼ し は を か し い な

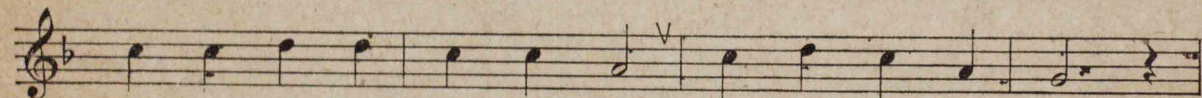
人形

♩=104

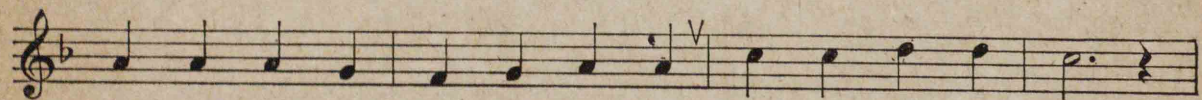
人形



ニ わ た し の に ん ぎやう は よ い に ん ぎやう



う た を う た へ ば ね ん ね し て



ひ と り で お い て も な き ま せ ん



— — — — —

八

人形

四人形

九

一、わたしの人形は よい人形。

目はぱつちりと いろじろで、

小さい口もと 愛らしい。

わたしの人形は よい人形。

二、わたしの人形は よい人形。

うたをうたへば ねんねして、

ひとりでおいても 泣きません。

わたしの人形は よい人形。

五、ひよこ

一、ひよくひよこ、ちひさなひよこ、

兄弟あなごなかよく 一ちしよに歩あけ。

あしの強つよく ならぬうちに

とほくへ行いくな ひとりで行いくな。

二、ひよくひよこ、 かけいいひよこ、

いつでも親おやに だかれて眠ねれ。

はねの長ながく ならぬうちに

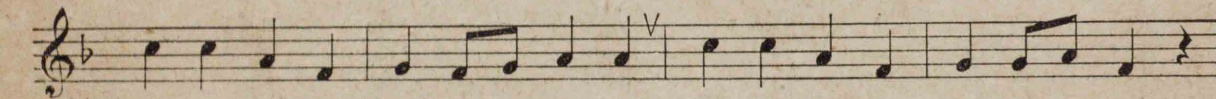
離はなれて寐ねるな ひとりで寐ねるな。

ひよこ

♩=112



一 ヒヨヒヨ ヒヨ コ チヒサナ ヒヨコ
ニ ひよひよ ひよ こ かけいいひよこ



キヤウダイ ナカヨク イツシヨニ アルケ
いつでも おやに だかれて ねむれ



ア シノ ッヨク ナラヌ ウチニ
は ねの な が く ならぬ うちに



トホクヘ イクナ ヒトリデ イクナ
はなれて ねるな ひとりで ねるな

ひよこ

10

六、かたつむり

一、でんく虫々 かたつむり、

お前のあたまは どこにある。

角だせ槍だせ あたまだせ。

二、でんく虫々 かたつむり、

お前のめだまは どこにある。

角だせ槍だせ めだま出せ。

かたつむり

♩=92

一 デンデン ムシムシ カタツムリ
 ニ でん でん むし むし かたつむり

オ マヘノ アタマハ ドコニアル
 おまへの めだまは どこにある

ツノダセ ヤリダセ アタマダセ
 つのだせ やりだせ めだまだせ

七、牛若丸

一、京の五條の橋の上、

大のをとこの辨慶は

長い薙刀ふりあげて

牛若めかけて切りかゝる。

二、牛若丸は飛び退いて、

持った扇を投げつけて、

来い〜と欄干の

上へあがつて手を叩く。

三、前やうしろや右左、

ここと思へば又あちら、

燕のやうな早業に、

鬼の辨慶あやまつた。

牛 若 丸

♩=92

一 二 三
キウ ヤ ウ ノ ゴ デ フ ノ ハ シ ノ ウ ヘ
ウ マ シ わ か ま シ は ノ ミ ビ の い テ
コ コ コ ト オ フ モ ギ ナ タ フ リ ア ゲ テ
コ コ ト オ フ モ ギ ナ タ フ リ ア ゲ テ
ツ バ メ ノ ヤ ウ ナ ト ナ ハ ヤ ワ カ ギ ナ カ ル
オ 一 ニ ヘ ノ ベ あ ガ ケ テ キ リ カ カ ル
オ 一 ニ ヘ ノ ベ あ ガ ケ テ キ リ カ カ ル

八夕立

一、降るく夕立。
鳴るく雷。

小川にめだかを

取つてぬた子供は、

箆を被つて

急いで歸る。

二、照るくお日様。

飛ぶく白雲。

学校にはれまを

待つてぬた子供は、

本をかへて

静かに歸る。

夕立

♩=112

夕立



一 フルフル ユラダチナルナル カミナリ
ニ てるてる おひさまとぶとぶ しらくも



コガハニメダカヲトツテキタコドモハ
がつかうにはれまをまつてゐたこどもは



ザルヲカブツテイソイデカヘル
ほんをかかへてしづかにかへる

九、桃太郎

一、桃太郎さんく。

お腰につけた黍団子、
一つわたしに下さいな。

二、やりませうく。

これから鬼の征伐に、
ついて行くならやりませう。

三、行きませうく。

あなたについて何處までも、
家來になつて行きませう。

四、そりや進めく。

一度に攻めて攻めやぶり、
つぶしてしまへ鬼が島。

五、おもしろいく。

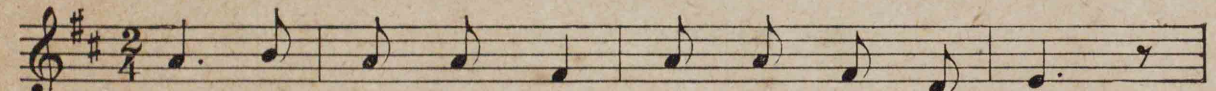
のこらず鬼を攻めふせて、
分捕物をえんやらや。

六、萬々歳 萬々歳、

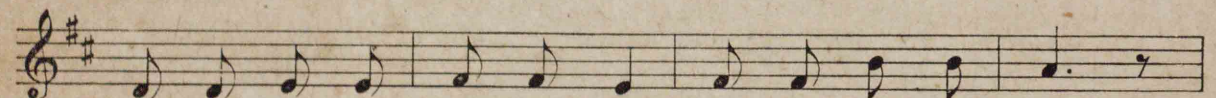
お伴の犬や猿雉子は、
勇んで車をえんやらや。

桃太郎

♩=112



一三四五六
モヤイモオバ
モリキヤモン
タママサシバ
ラセセすろん
サンウメイざい
モヤイモオバ
モリキヤモン
タママサシバ
ラセセすろん
サンウメイざい



一三四五六
オニアイノお
コレナチコト
シカタドラも
ニラニズの
ツおツセオイ
ケにイメニぬ
タのテテチヤ
キゼドセセさ
ビイコメノる
ダバマヤフキ
ンツテオセじ
ゴにモリチは



一三四五六
ヒツケツブイ
トイラボンま
ツてニてリで
イしドん
ヲいナしモく
タクツまノる
シなテヘチま
ニラ一一を
クワイおエえ
ダリキにンん
サママガヤヤ
イゼセしラら
ナウウミヤヤ

一〇、朝顔

一、毎朝 毎朝

咲くあさがほは、

をととひきのふと

だんくふえて、

今朝はしろ四つ

むらさき五つ。

二、大きな荅は

あす咲く花か。

ちひさなつぼみは

あさつて咲くか。

早く咲け咲け、

絞りや赤も。

(秋季尋常小學校讀本卷二所載)

朝 顔

♩=84

朝 顔



一 マ イ ア サ マ イ ア サ サ ク ア サ ガ ホ ハ
二 お ほ き な つ ぼ み は あ す さ く は な か



ヲ ト ト ヒ キ ノ フ ト ダ ン ダ ン フ エ テ
ち ひ さ な つ ぼ み は あ さ つ て さ く か

二〇



ケ サ ハ シ ロ ヨ ツ ム ラ サ キ イ ツ ツ
は や く さ け さ け し ぼ り や あ か も

一、池の鯉

一、出て来い 出て来い 池の鯉。

底の松藻のしげった中で、

手のなる音を聞いたら来い。

二、出て来い 出て来い 池の鯉。

岸の柳のしだれた蔭へ、

投げた焼麩が見えたら来い。

池の鯉

♩=96



一 デ テ コ イ デ テ コ イ イ ケ ノ コ ヒ
ニ で て こ い で て こ い い け の こ ひ



ソ コ ノ マ ツ モ ノ シ ゲ ツ タ ナ カ デ
き し の や な ぎ の し だ れ た か げ へ



テ ノ ナ ル オ ー ト フ キ イ タ ラ コ イ キ イ タ ラ コ イ
な ー げ た や き ふ が み え た ら こ い み え た ら こ い

二、親の恩

一、軒のきに巢すをくふ 燕つばきを見みたか。

雨あめの降ふる日ひも 風かぜ吹ふく日ひにも、

親おやは空そらをばあつちこつち飛とんで、

虫むしをとつて來きて 子こに食たべさせる。

二、ひよこ育そだてる 牝めん雞どり見みたか。

ここここここと 子こ供どもを呼よんで、

庭にわの隅すみやら はたけの中なかで、

餌えさをば探さがして 子こに拾ひろわせる。

親の恩

♩=112

親の恩

一ノキニスヲクフツバメヲミタ一カ
ニひよこそだてるめんどりみた一か

アメノフルヒモカゼフクヒニモ
ここここここと

オヤハのソラヲバアツチコツチトナカデ
にはのすみやらははたけのなかで

ムシをばトツテキシテコニタペルサセ
る

二三 鳥

かあ〜

鳥からすが

啼ないていく。

からす〜

何處どこへ行く。

お宮みやの森もりへ、

お寺てらの屋根やねへ、

かあ〜

鳥からすが

啼ないて行く。

(尋常小學讀本卷一所載)

鳥

♩=84

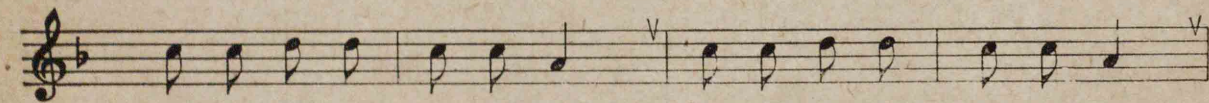
鳥



カ アカ アカ ラ ス ガ ナ イ テ イ ク



カ ラ ス カ ラ ス ド コ ヘ イ ク



オ ミ ヤ ノ モ リ ヘ オ テ ラ ノ ヤ ネ ヘ



カ アカ アカ ラ ス ガ ナ イ テ イ ク

一四 菊の花

一、見事に咲いた

かきねの小菊

一つ取りたい、

黄色な花を、

兵隊遊びの

勳章に。

二、見事に咲いた

垣根の小菊

一つ取りたい、

眞白な花を、

飯事遊びの

御馳走に。

菊の花

♩=108

菊の花



一ミゴトニサイータカキネノコギーク
ニみごとにはさいたかきねのこぎーク



ヒトツトリタイキイロナハナヲ
ひとつとりたいまっしろなはなを



ヘイタイアソビノクンシャウニ
ままごとあそびのちそうに

一五、月

一、出た^でたく^{つぎ}月が、

圓^{まる}い^くまんまるい
盆^{ぼん}のやうな月^{つぎ}が。

二、隠^{かく}れた雲^{くも}に、

黒^{くろ}い^くまつくろい
墨^{すみ}のやうな雲^{くも}に。

三、また出^でた月^{つぎ}が、

圓^{まる}い^くまんまるい
盆^{ぼん}のやうな月^{つぎ}が。

(尋常小學讀本卷二所載)

月

♩=88



一 デ タ デ タ ツ キ ガ
二 か く れ た く も に
三 マ タ デ タ ツ キ ガ



マ ル イ マ ル イ マ マ ツ キ ル イ
く ろ い く ろ い マ つ く ろ い
マ ル イ マ ル イ マ マ ツ キ ル イ



ボ ン ノ ヤウ ナ ツ キ ガ
す み の やう な く も に
ボ ン ノ ヤウ ナ ツ キ ガ

一六、木の葉

一、何處から来たのか 飛んで来た木の葉
 くるくまはつて 蜘蛛の巣にかゝり、
 風に吹かれて ひらくすれば、
 蜘蛛は蟲かと 寄つて来る。

二、何處から来たのか 飛んで来た木の葉
 ひらく舞つて来て 池の上におちて、
 波にゆられて ゆらくすれば、
 鯉は餌かと 浮いて来る。

木の葉

♩=92

一ドコカラキタノカトンデキタキノハ
 ニドコからきたのかとんできたきは
 クルクルマハツテクモノスニカカリ
 ひらひらまつてきていけのうへにおちて
 カゼニフカレテヒラヒラスレバ
 クモハムシカトヨツテクル

一七、兎

一、私は兎と申すもの、

顔や體の小さい割に、

耳の長いのが何より自慢。

皆さんよく見て下さいな。

二、藝はこれとて無いけれど、

前脚短く後脚長く、

飛んで跳ねるのが誰より上手。

皆さん囃して下さいな

兎

♩=96

一 ワ タ シ ハ ウ サ ギ ト マ ウ ス モ ノ ド
ニ げ ー い は こ れ と て な い け れ ど

カ ホ ヤ カ ラ ダ ノ チ ヒ サ イ ワ リ ニ
ま へ あ し み じ か く あ と あ し な が く

ミ ミ ノ ナ ガ イ ノ ガ ナ ニ ヨ リ ジ マ ン
と ん で は ね る の が た れ よ り じ や う す

ミ ナ サ ン ヨ ク ミ テ ク ダ サ イ ナ
み な さ ん は や し て く だ さ い な

♩=112

紙鳶の歌

紙鳶の歌

一 二 三

タ 一 コ 一 タ コ 一 ア ガ レ
 る 二 だ 二 こ に 一 じ だ ニ
 ア 三 レ ア レ 一 サ ガ ル

カ ぜ ヨ ク ウ ケ テ
 ど ち ケ ら も け け す
 ヒ ケ ケ イ ト ヲ

ク モ ア マ デ ア ガ レ
 く も れ ま ま で が れ
 ア ア ガ ル

テ ン マ デ ア ガ レ
 て ん ま ま で が れ
 ハ ナ ス ナ イ ト

一八 紙鳶の歌

一、紙鳶紙鳶揚れ。
 風よくうけて、
 雲まで揚れ。
 天まで揚れ。

二、繪紙鳶に字紙鳶。
 どちらも負けず、
 雲まで揚れ。
 天まで揚れ。

三、あれく下る。
 ひけひけ絲を。
 あれく揚る。
 放すな絲を。

(尋常小學讀本卷二所載)

犬

犬

♩=120




一 ツ ト ヘ デ ル ト キ ト ン デ キ テ
ニ う ち ヘ カ ヘ る と を を ふ つ て



オ ツ テ モ オ ツ テ モ ツ イ テ ク ル
た も と に す が つ て う れ し が る

三八



ホ チ ハ ホ ン ト ニ カ ハ イ イ ナ
— — — — — — — — — — —

犬

一九 犬

三九

一、外へ出る時とんで来て、

追つてもく附いて来る。

ほちはほんとに可愛いな。

二、内へ歸ると尾を振つて、

袂に縋つて嬉しがる。

ほちはほんとに可愛いな。

二〇、花咲爺

一、正直爺が
野原も山も
殿様大層も
花ざかり。
灰まけば
よろこんで
下される。

二、意地悪爺が
目鼻も口も
殿様大層も
灰まけば
灰だらけ。
はらを立て
かけられる。

花咲爺

♩=84

花咲爺

一 シャウヂキヂヂイガハヒマケバ
ニ いちわるぢぢい が は ひ ま け ば

ノハラモヤマモハナザカ
めはなもくちもはひだらけ

トノサママタイソウヨロコ
とのさまたいそうはらをと

チヂイニハウビヲクダサ
ぢぢい に は う び を か げ せ れ

發行所

株式會社
國定教科書共同販賣所

東京市日本橋區新右衛門町十六番地

印刷所

凸版印刷株式會社分工場
東京市本所區番場町四番地

印刷者

岡功
東京市本所區番場町四番地



發行者

代表者 大橋新太郎
株式會社
國定教科書共同販賣所
東京市日本橋區新右衛門町十六番地

著作權者

文部省

明治四十四年五月八日發

行

明治四十四年五月五日印

刷

臨時定價 金八錢

大正九年度

定價 金五錢

尋常小學唱歌第一學年用

大正拾年度 臨時定價 金拾壹錢

